



漢字表記の外国地名を調べるには

〒335-0021 戸田市大字新曽1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

新聞などで目にする「米(国)」。これは「アメリカ」を指し、外来語の宛字「亜米利加」の略語です。漢字圏では、このように外国地名を漢字で表記することがあります。そこで今回は、漢字で書かれた外国地名の調べ方を紹介します。

◎紹介する本は、本館2階の参考資料を中心に選びました。

知りたい情報は何ですか？

■まずは自分が知りたい情報が何かを確認してから、該当のページに進みましょう。

知りたいこと	該当ページ	どの項目を見るか
漢字の読み方を知りたい	p. 2	漢字の読み方を調べる
外国地名の一覧表が見たい	p. 2-3	外国地名一覧表

書架の探索と本の選別

■ヨミガナから漢字形を知りたい場合は「国語辞典」、漢字の読み方を知りたい場合は「漢和辞典」が使えます。それ以外の資料でも取り上げられていますので下記の分類記号を参考にしてください。本の使い方がわからない時は凡例や索引を見ることをおすすめします。

●外国地名に関する本は次の分類記号の棚にあります。

日本史辞典	210.03	漢字	811.2
漢和辞典	813.2	外来語	813.7

- ・図書館の本には1冊ずつテーマを表す分類記号がついています。
- ・分類記号は本の背表紙に貼付されているラベルに記してあります。
- ・棚の本はすべて分類記号の数字順に並んでいます。本を探す際の目安にしてください。

漢字の読み方を調べる

■漢字で書かれた外国の国名・地名の読み方を知りたい時は「漢和辞典」をお使いください。収録数が多い辞典を使うと調べられる確率が高くなります。

書名(出版者、出版年/分類)/何を調べられる本か・調べ方のポイント
<p>『大漢和辞典』全13巻〔縮写版第6刷〕+語彙索引+補巻 (大修館書店、1980、1990、2000/R813.2)</p> <p>【特徴】 ●収録語数48, 902字/日本で刊行される漢和辞典の中で最も収録数が多いです。</p> <p>【調べられること】 ●色々な種類の漢字、音訓、意味、熟語を調べられます。</p> <p>【調べ方のポイント】 ・巻13の「総画索引」「音訓索引」か、別巻「語彙索引」、「部首索引」(当館作成)を使って調べます。</p>
<p>『新潮日本語漢字辞典』 (新潮社、2007/R813.2)</p> <p>【特徴】 ●収録語数15, 375字</p> <p>【調べられること】 ●従来の漢和辞典に記載されていない日本語の異表記、異体字、熟語などを調べられます。</p> <p>【調べ方のポイント】 ・巻頭の「音訓索引」「総画索引」、見返し「部首索引」を使って調べます。</p>
<p>『宛字外来語辞典』 (柏書房、1979/R811.2)</p> <p>【特徴】 ●幕末から明治期を中心に、地名・人名を漢字表記した外来語を収録しています。</p> <p>【調べられること】 ●漢字形からヨミガナを調べられます。</p> <p>【該当ページ】 ・p.33-146「一般件名・人名」 ・p.149-237「地名-A. 外国地名」</p> <p>【調べ方のポイント】 ・巻頭「首字画引検索目次」で該当ページを探します。 ・項目内は画数順です。</p>

※普段使う漢和辞典に載っていないこともあります。そんな時は収録数の多い漢和辞典に当りましょう。

※漢字を調べる時は、自分の使い慣れた方法の索引で引きましょう。

外国地名一覧

■漢字で書かれた外国の国名・地名を一度に確認したい場合は以下の資料をご覧ください。

書名(出版者、出版年/分類)/何を調べられる本か・調べ方のポイント
『近代史必携』(吉川弘文館、2007/R210.0)

<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●明治維新から現代までの近現代史を読み解く上で必要なデータ、図表が載っています。
<p>【調べられること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外来語の国名と地名を調べられます。
<p>【該当ページ】</p> <p>p.33-35「外来語・外国人漢字表記」</p>
<p>【調べ方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目次」で「外来語・外国人漢字表記」を探します。 ・項目内は漢字表記の音読み順です。
<p>『大きな活字の三省堂五十音引き漢和辞典』（三省堂、2004/R813.2）</p>
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●収録語数7,900字(親字6,300字+異体字1,600字) ●熟語数30,000語
<p>【調べられること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「地名」の項目では、外来語の国名と地名が調べられます。
<p>【該当ページ】</p> <p>巻末付録 p.26-28「宛字外来語」-〔地名〕、p.29「日中宛字対比表」</p>
<p>【調べ方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目内はヨミガナの五十音順です。 ・日本と中国で表記が違う場合は、p.29「日中宛字対比表」をご覧ください。
<p>『漢字百科大事典』（明治書院、1996/R811.2）</p>
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「資料編Ⅲ 漢字の貸借-2. 地名篇」は『万国史』に出てくる用語を中心に選んでいます。
<p>【調べられること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「資料編Ⅲ-2. 地名篇」では、外来語の国名と地名の原綴、漢字表記、出典を調べられます。
<p>【該当ページ】</p> <p>p.1210-1218「外来語の漢字表記一覧-2. 地名篇」</p>
<p>【調べ方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目内はヨミガナの五十音順です。 ・同じ語の中は時代順です。
<p>『宛字外来語辞典』（柏書房、1979/R811.2）</p>
<p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幕末から明治期を中心に、地名・人名を漢字表記した外来語を収録しています。
<p>【調べられること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出典別に外来語の国名、地名を調べられます。※一覧表ではありません。
<p>【該当ページ】</p> <p>p.238-247「B. 千島・樺太関係地名」 p.289-293「E. 福沢諭吉「世界国尽」にみる表記例」 p.294-298「F. 史学会「外国地名人名呼称一覧」にみる表記例」 p.299「G. 外国名の漢字表記および略語表記例一覧」</p>
<p>【調べ方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の項目ごとに配列が異なります。 ・ヨミガナがわかる場合は、巻末「索引」から本文の該当ページを探することができます。